

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 25 日現在

機関番号：34407

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23656378

研究課題名(和文)都市組織の重層的変容に基づくパリの近現代都市基盤インフラ形成に関するGIS援用研究

研究課題名(英文)A GIS aided study of modern urban infrastructure in Paris through multi-layered transformation of urban tissue

研究代表者

松本 裕 (MATSUMOTO, YUTAKA)

大阪産業大学・デザイン工学部・准教授

研究者番号：20268246

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円、(間接経費) 690,000円

研究成果の概要(和文)：歴史都市パリでは、市壁の解体・再構築による市域拡大と数々の都市内改造が行われた結果、幾重にも織重なる特徴的な都市組織(tissu urbain)が形成されている。そこで、パリ旧市街を対象に、都市組織の具体的な重層過程の図化・分析を通じ、それが近現代の都市再開発において、都市を下支えする基盤的なインフラとして如何に関与し新しい都市景観創造につながったのかを実証的に解明した。

同時に、歴史性や場所性を分析する方法として、「GIS(地理情報システム)」の「HIS(歴史情報システム)」としての援用する可能性を探究した。

研究成果の概要(英文)：Historical urban form in Paris is characterized by the superposition of <<urban tissue / urbain fabric>>, as a consequence of the extension of the city through the construction and destruction of rampart and also as the result of several renovational projects. This study analyzed the process of transformation of urban tissue through the modern city redevelopment in the center of Paris, in order to make clear how the urban tissue took part of a cityscape creation as infra-structure. And this study applied the <GIS(Geographic Information System)> to analyze the historical information like as <HIS(Historical Information System)>.

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学 建築史・意匠 都市史

キーワード：土地区画整理 都市組織(tissu urbain) 再開発 オスマニゼーション 地籍図 地割 インフラストラクチャー バロン・オスマン

1. 研究開始当初の背景

本研究が着目する「都市組織」(tissu urbain / urban fabric)という概念は、都市を生きた有機体として捉え、さまざまな要素が複合的に関係し織り合わされた組織体として捉えようとするものであり、1960-70年代にヨーロッパの歴史都市において、近代主義的建築・都市計画への反省から、同時に発生してきた考え方である。都市組織に関して、日本における研究の嚆矢は、陣内秀信氏による一連の都市史研究に見られる。

この考え方を展開した先駆的研究者がイタリアのS・ムラトーリであり、地割、道、空地等により土地に刻み込まれたいわば水平的な次元である都市組織と垂直的な建築類型との相関関係が分析された。

イタリア発の都市組織研究は、F・ブドンらのレ・アール地区[パリ市第1区]研究(1977刊)を通じてフランスに導入された。この研究では、都市組織の諸要素のうち特に地割の変遷に焦点が当てられ、そこから都市建築の生成メカニズムを解明することが目指された。

研究代表者は、ブドン教授から図面復元方法等の直接指導を受け当申請研究の指針を得た。また、オスマン研究の権威P・ピノンは、都市組織の変遷を「画地整理(lotissement)」の観点から分析している。研究代表者は、パリ建築大学ベルビル校にてピノン教授の指導の下、レオミュール通り(オスマン開設道路)の都市組織の変遷に関する研究でDEA学位を取得した。

これら重要な既往研究と研究代表者の位置づけをふまえ、以下、関連する主な科研費採択課題を通じて独自に試みてきた研究の成果とその都度浮上した問題を整理し、当申請に至った経緯を示す。

まず、市壁の解体・再構築に伴う都市組織の変遷を「パリにおける都市境界域の空間構造に関する研究～パリ市第 区、ストラスブ

ール・サン＝ドニ地区を巡って～」(H9～10 奨励A)にて分析し、次いで、その変遷をGISで復元図化するための一次資料と作図方法の検討を行ったのが「GISを用いた歴史都市解析の可能性～パリ市歴史中心地区(区)を事例として～」(H11～12 奨励A)である。そこで作成した時代毎の都市組織図の比較において最も顕著な変遷を示したオスマンのパリ大改造を土地収用や画地分譲にまで踏み込んで詳細に検討したのが「セーヌ県知事オスマンの街路開設事業におけるパリ市歴史中心地区での土地収用と再開発」(H14～16 若手B)である。その結果、オスマンの道路開設事業は、歴史的街並みの解体的側面以上に既存の都市組織を有機的に結合させその重層化に寄与した事が明らかとなった。その後、パリ市はメトロポリス化、グローバル化を辿るが、現代もなお既存の都市組織との関係性は常に意識され、最も基盤となるレベルで一種のインフラとして作用し続けている事を新たな問題点として把握し本申請に至った。

2. 研究の目的

研究代表者はこれまで、パリ市の再開発を都市組織の再編という観点から研究してきた。歴史都市パリでは、市壁の解体・再構築による市域拡大と数々の都市内改造が行われた結果、幾重にも織重なる特徴的な都市組織が形成されている。

本研究では、こうしたパリ市の発展を跡付ける典型的な場所を選定し、都市組織の具体的な重層過程の図化・分析を通じ、それが近現代の都市再開発において、都市を下支えする基盤的なインフラとして如何に関与し新しい都市景観創造につながったのかを実証的解明を試みた。同時に、歴史性や場所性を分析する方法として、「GIS(地理情報システム)」の「HIS(歴史情報システム)」として

の援用可能性を探究する。それにより、得られた知見は、わが国の現代都市環境整備にも展開し得る有意義であると考えられる。

3. 研究の方法

次の3点を順次明らかにする計画である：

1 パリ市中心地区から旧フォブール(郊外)に至る連続都市組織図のGISを用いた作成・データ構築

2 オスマンのパリ大改造計画による都市組織の大規模再編の詳細

3 重層的に構築されてきた都市組織の都市基盤インフラとしての近現代都市再開発への関与

本研究を通じ、都市組織を都市基盤インフラストラクチャーとして再検証し、パリの近現代都市との関連性を明らかにする。その際、都市組織の変遷過程の解明を通じ、GISの歴史空間情報分析への応用を試みる。それにより、歴史性や場所性といった抽象的概念をより実証的に分析する方法を探究し、歴史研究を現代都市の要請へと具体的に役立てる新たな知見の導出を目指す。

4. 研究成果

以下、申請時の3カ年計画に則り実施した調査研究の内容とその成果概要を年度毎に記す：

(1) 歴史都市パリにおいて、重要な都市基盤インフラを成している「都市組織(tissu urbain)」の重層過程を、GISをHIS(歴史情報システム)として援用しながら図化し、その変遷の詳細を分析することにより、場所の固有性を明らかにすることである。

研究初年度(H23/2011)は、旧市壁(シャルル5世の城壁とルイ13世の城壁)の境界を対象に、パリ市中心地区から旧郊外に至る連続都市組織図をGISにて図化した。当該年度に作業を行った地域は、ボンヌ・ヌーヴ

エル地区+マイユ地区ならびにパリ市歴史中心地区レ・アール地区の2地区と旧フォブール・ポワソニエール地区(現ポルト・サン＝ドニ地区+フォブール・モンマルトル地区)の南側グラン・ブルヴァール周辺区画である。かかる地域の都市組織図を現代版にまで更新すべく、現地踏査と、一次資料の収集を実施した。特に、レ・アール地区においては、1991年版都市組織図に記された状況を一変させる大規模再開発が進行しており、その解体現場の状況を調査した。レ・アール地区の今後の変遷図作成は進捗状況に応じ次年度以降の作業目標に付加する計画である。その他の地域では、1991年度版以降に特筆すべき変化は見られなかった。なお、こうした一連の近・現代都市再開発関連資料は、パリ行政資料館、パリ市古文書館、パリ市歴史図書館にて収集した。

これらのデータに基づき、当該年度は、パリ市の歴史中心地区から旧都市境界域までに及ぶパリ市発展の基本的な拡張を、都市組織図(18世紀末から現在まで一次資料に基づく8つの時代断面)のレベルで比較可能な状態とした。

(2) 本研究では次の仮説を立て研究を行ってきた：「歴史都市=都市組織の重層化」、「場所の固有性・歴史性=都市組織の重層の仕方・具合」。具体的には、歴史都市パリの中心市街地(第I,II区)を対象に、そこにおける都市組織の重層過程を分析することである。

研究初年度(2011/H23)に、旧市壁(シャルル5世とルイ13世の城壁)境界を対象に上記分析を試みてパリ市中心部から旧郊外(フォブール)への連続的な展開を広く図化し、変化の起こった個所を明示したのを受けて、研究2年目の2012/H24年度は、テーマ「オスマンのパリ大改造計画による都市組織の大規模再編の詳細」に関して、関係する

場所の変化を深く掘り下げる作業を行った。その際、[1] オスマン在任中(1853-1870)に実施された開設道路、[2] オスマン失脚後の「ポスト・オスマン」期に継続実施された開設道路、に大別し、近現代都市再開発の基盤を形成したナポレオン3世とセーヌ県知事オスマンによるパリ大改造計画の実態を明らかにした。また、パリ市における現地調査を行い、関連する一次資料収集を行った。具体的に利用した資料館は次のとおりである：パリ市行政図書館、パリ市古文書館、パリ市歴史図書館、アルセナル館資料室。

(3) 都市の「歴史性」や「場所性」といった抽象的な概念を「都市組織」の変遷に着目して具体的に明らかにすることを目的に、対象として、都市開発の痕跡が幾重にも織り重なった旧市街パリ市第I・IIを設定した。2年間(2011、2012年度)の研究成果に基づき、3年目(研究最終年度)となる2013年度は、「重層的に構築されてきた都市組織の都市基盤インフラとしての近現代都市再開発への関与」に関してフィールドワークを実施し、次の3つの具体的場所における都市組織の変遷と近現代都市再開発計画との関係を分析した：

[1] サン＝ドニ門周辺再開発コンクール(1943実施)

[2] モントルグイユ歩行者専用区域の整備計画(1989-94以降現在に至る)

[3] レ・アール地区での2度の再開発計画(1963年旧市場解体以降現在に至る)

特に[3]のレ・アール地区に関しては、1970年代においてパリ最大の再開発事業であった場所が再び新たな整備の必要性に直面しており、近代主義(モダニズム)都市建築の現代再開発という新たな局面を都市組織的の変遷から分析した。それ以外の2地域は、近代再開発を通じて結果的に保存された都市組織が基盤となっている場所であり、既存

の都市組織を維持しつつ現代のニーズに対して如何に適応していくかについて、[1]では都市境界域の景観整備、[2]では都市交通の制御を通じた約20haに及ぶ歩行者専用区域化による都市アメニティー機能の向上、がそれぞれ把握された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

松本 裕「残されし基礎・敷地と所有システムの行方」、日本建築学会『建築雑誌』巻VOL-127, No-1631、2012年4月号、pp.36-37 (査読なし)

[学会発表](計4件)

松本 裕「パリにおける住環境整備と都市組織 - 第二次世界大戦後の北部・東部地域開発からZAC(協議整備区域)への展開 - 」、国際シンポジウム「20世紀の都市と住宅 ヨーロッパと日本 - 歴史的アプローチと未来への展望」、2013年9月22・23日、日仏会館1階ホール
松本 裕「近代都市再開発を通じた都市組織の重層化—19世紀パリ大改造をめぐって—」、第5回都市発生学研究会 明治大学、2012年7月19日

松本 裕

「パリにおける近・現代都市再開発と都市組織の変遷～オスマンパリ大改造とZAC(協議整備区域)計画をめぐって～」、京都建築スクール(ASK)-II、京都工芸繊維大学、2012年5月12日
Matsumoto Yutaka, “Den'en toshi 田園都市 : les cite jardin”, The 43th International Research Symposium. <<Pour un vocabulaire de la spatialité japonaise.>>, International Research

Center for Japanese Studies, May
11-13, 2012 in Kyoto.

〔図書〕(計5件)

Matsumoto Yutaka, « 田園都市 La
Cité-Jardin », *Vocabulaire de la
spatialité japonaise*, Philippe BONNIN
edition, CNRS, pp.101-104, 総頁 605,
2014/3/1

松本 裕「敷地解説「大阪」,「線状構造」
商業都市—大阪日本橋、「旧市街の復権」
に関する講評」,京都建築スクール実行委
員会(松本裕 含む)『京都建築スクール
2013 リビングシティを構想せよ 商
業の場の再編』,建築資料研究社、2013
年12月、pp.12-13, 28-37, 107所収、総
頁143

松本 裕、竹口 健太郎、他

「Industrial Terminal Market —工業中
央市場計画—」『都市の点<コア>』京都
建築スクールII・2012年作品集所収、見
聞社、2013年2月、pp.5-10所収

Matsumoto Yutaka, “Den'en toshi 田
園都市 : les cite jardin”, 『国際研究集会
報告書 第43号 — Pour un vocabulaire
de la spatialité japonaise —』(フィリップ・
ボナン、西田正嗣、稲賀繁美 編集),
国際日本文化研究センター、2013.03,
pp.195-200 所収 .

松本 裕「大都市近郊高密度工業集積地
における都市空間形成に関する研究～大
阪市における道路整備事業と東大阪の都
市的展開」,『北河内並びに周辺地域の包
括的環境指標の構築と環境デザインデザ
イン実践に関する研究』(産研叢書35),
大阪産業大学産業研究所、2012、
pp.171-195所収、総頁291.

6 . 研究組織

(1)研究代表者

松本 裕 (MATSUMOTO Yutaka)

大阪産業大学 デザイン工学部・准教授

研究者番号 : 20268246